

## 2020年度賛助会の依頼

特定非営利活動法人SAJANPO 法人サヤの目的にご賛同いただける方は、是非賛助会にご入会ください。当法人の目的は、在宅の精神障害者に対して、地域生活支援に関する事業を行い、併せて障害者の自立と社会経済活動への参加を図ることを通して、精神保健福祉の増進に寄与することです。

- 主な事業は①就労継続支援B型事業所の運営 ②精神保健福祉に関する知識の普及啓発活動  
③障害者福祉関係団体との交流及び地域福祉組織化活動  
④研修事業等 ⑤指定相談支援事業所の運営

賛助会年会費は2,000円です。ご入会いただいた方にはたんぼぼの機関紙「LIFE」(年2回)をお届けします。何卒ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

会費のお支払方法…①郵便振込(申し訳ありませんが、振込手数料のご負担をお願いします。)

口座番号：01680-5-57087 加入者名：特定非営利活動法人サヤ  
②当事業所窓口にて支払い

### 駄菓子屋たんぼぼ営業時間

6月からは月～土

10時～17時

火曜日のみ15時30分まで

### ボランティアの皆様へ

たんぼぼのイベントのお手伝いや事業所への訪問等、様々なかたちで関わってくださっている皆様、いつも本当にありがとうございます。大変な時期ではありますが、皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。お時間ありましたら、いつでも気軽に遊びに来てください。

POPO 前の花壇をご厚意で整備してくださっています。

駄菓子屋やPOPOにお立ち寄りの際はぜひ、眺めてみてください♪



### 編集後記

各記事にあったように、たんぼぼもコロナの影響や余波を受け、それぞれの活動の縮小や延期・中止を余儀なくされています。何よりも命が優先なので、無理せず、今は忍耐の時期なのかな、と思っています。しかし、こんな時だからこそできることを考えて、6月からの土曜日は、クッキーの委託先の飲食店様をはじめ、テイクアウトランチでお昼ご飯を食べよう！と考えています。(集まれないので分かれて食べますが…)どんな時でも楽しく過ごすためには、柔らかな顔で自由な発想をする力がとても大切だな～、としみじみ感じています。

第67号 2020年6月1日発行

特定非営利活動法人SAJA (サヤ)  
就労継続支援B型事業所 たんぼぼ  
相談支援事業所 POPO  
〒763-0066 丸亀市天満町1-2-31  
TEL: 0877-22-2840  
HP tanpopo-saja.com

# LIFE

## ピンチはチャンス！何度でも最初の一歩に戻ろう！



理事長 西谷清美

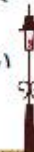
ご承知のとおり、新型コロナウイルスはその感染力を全世界に拡大させ、私たちの日常生活のあり方や人との関係形成のあり方、さらには生き方にも大きな影響を与えています。このような状況を、それぞれの社会がもつこれまでの慣習や風俗、文化等を書き換えなければならないほどの深刻な事態が起きてしまったと捉えることもできます。人々がウイルスに感染することは、個人の生命の危機に瀕する可能性だけでなく、個人および集団、組織、地域社会における経済的、心理的、文化的な危機に陥る可能性が高まるということです。まさに、世界の危機、地球レベルのピンチと言えるでしょう。

現在、感染症対策専門家会議が提示しました「3つの条件が重なる場」を避ける努力が国民全体に要請されています。つまり、換気の悪い密閉空間(密閉)、多くの人が密集する場(密集)、近距離での会話や発声(密接)等を避けるということです。NPO法人サヤでは、行政からの要請(感染予防対策の基準や方法)内容を基本に、法人独自の対策を講じながら日々の活動を続けていくところです。具体的には、毎朝の検温や体調の聞き取り、お互いの気持ちや体調へのいたわり、マスクの着用や手洗いの徹底はもちろん、先述の3つの「密」を避けるべく、社会人としてのマナーやエチケットに細心の注意を払っています。また、その他にもメンバーとスタッフのそれぞれが機会あるごとに、感染症関係者への予断や偏見に留意すること、メディアで報じられているような感染者パッシングを慎むこと等を話題にしています。

ところで、深刻なウイルス感染ですが、このようなピンチの時にこそ、目の前の人の、あるいはこれまでずっと一緒に過ごしてきた人の新たな一面が見えたりします。仮にポジティブな面だけをとらえるなら、それはその人の強さであったり、優しさであったり、広さであったり、深さであったり、とにかくピンチの時ほどその人本来の「こころの姿」が見えるということです。そして社会や集団、あるいは組織体もまた、ピンチの時ほど本来の姿を見せるのです。ネガティブな面で見ると、感染症陽性者および医療関係者への予断や偏見、中傷やあからさまな差別、ネットリンチ等が挙げられます。その一方、医療品やマスク、消毒液やその他希少な生活物品の寄付・無償貸与、そしてエール等、他者を思いやる行為や諸々の社会貢献活動も多々見受けられます。ここにきて、私たち「市民」、そして「日本の国」「日本社会」の成熟度が試されているようです。

さて、NPO法人サヤ「たんぼぼ」ですが、このピンチを切り抜けて新たな活動のチャンスに繋げていくために、今年度の活動指針(活動の信念)として、以下にご紹介する「最初の一歩に戻ろう!」をスローガンに掲げて取り組んでいます。具体的な活動については本誌別記事をご覧ください。

関係者の皆様には、これまでと同様に、ご理解、ご協力、ご支援のほど、何卒宜しくお願いいたします。



## 活動の信念 “最初の一歩に戻ろう!”

「何でも知っている」「すべてわかっている」という支援者の態度は、目の前の「その人」との真の対話を遠ざけ、専門職の正当化と弁護のための予断を引き起こす。支援者の見方を押し付けるのではなく、「その人」の話をどこまで真摯に聴き、受け止めることができるかが対話の関係性を構築する鍵であり、まずは他者の他者性に気づくことが重視される。

また、支援の際のアセスメントや評価による客観化や対象化は、「その人」の客観的状态の中に存在するのではない。そうではなく「その人」と支援者の関係の中に、つまりは支援者に支援やケアを任せる社会と「その人」の間に存在するのである。支援者がアセスメントによって客観的事実を求めるとは、その事実によって自分自身(支援者/専門職)の権力を主張し、「その人」を支配することが可能になるからである。

支援者は、これらの事象を深く認識し、排除、周辺化、犠牲者にされた人々にとって自らが「社会統制の装置」であるということを実感し、自覚することではじめて目の前の「その人」と協働し、「その人」が再び人生を取り戻し、地域社会の中に再生することを支援のゴールとしなければならない。

まさに、私たち支援者のあり様(わきまえ)が問われているのである。

～2020年度活動指針より抜粋～

# 2020

## Face Mask

例年であれば、新年度を迎え少し落ち着いた頃ですが、今年は違っています。新型コロナウイルスによって様々なことが変化した3ヶ月でした。

学校の休校から始まり緊急事態宣言へと毎日衝撃的な嫌なニュースばかり、事業所でも県からの情報を基に、朝の体温計測、消毒、3室を回避するための対策などを徹底しながら開所しています。

緊急事態宣言を受けて、イベントや外食産業の自粛に伴い事業所でもジワジワと影響を受けはじめ、今までどおりの工賃を保つことが課題となっていました。そんな中で、何かできる事がないか考えていたところ、何人ものメンバーからマスクが手に入らないことが一番困っているとの声が上がりました。色々な事を自粛している今、新しいことを始められることが私たちにとってはとても活力になっています。幸いにも以前寄付で頂いた生地があったため、少し生地を購入し、まずはメンバーのためのマスク作りから始めました。慣れない作業ではありましたが、いろいろと試行錯誤しながら、たくさんの方に役立ってほしいという想いをこめて作り始めたマスクも今では何とか形になり、販売までたどり着くことができました。販売を開始してからは好評で、たくさんの方に購入して頂き、リピーターも増え、生産が追いつかない状況で忙しい日々が続いています。6月からは学校も始まるということで、新たに子ども用も作りようということになりました。コロナ渦の中、何もかも諦めるのではなく、共存していくために今できる事を考えながら、チャレンジすることを忘れずに、新しい生活スタイルへ変換していかなければならないと思っています。

主任 小西靖代



## COOKIE

私たちたんぼぼの営利活動の大きな部分を占めるクッキーの現状を報告します。例年であれば春から秋にかけて月に一度程度、バザー販売があるのですが、今回のコ

ロナウイルスの影響でバザーが一切なくなっています。それに伴いクッキーの製造数は減り、また、新たな委託先の開拓も難しい状況が続いています。製造予定にもゆとりができ、半日のクッキー製造作業が概ね週に4、5日あったものが現在では週に3日程度になっています。

このように、地域に向けての活動ができない日々が続いていますが、その中でもできることに取り組もう、ということで新商品の開発を少しずつ行っています。試作に挑戦したものは、バター生地を使った型抜きクッキー、パナラとココアを使った市松クッキー(実は以前作っていた復刻メニュー!)。今後挑戦したい味をみんなで相談していたら、あんこバター、チョコミント、黒糖バター、低糖質クッキー、チョコダイジェスティブクッキーなど、作ってみたい、食べてみたい、わくわくする案がたくさん出てきました。そんな中なんと、スーパーから小麦粉が姿を消すという想像もしていなかったトラブルに見舞われている今です。これからは思いがけないピンチに見舞われることがあるかもしれませんが、みんなでアイデアを出しながら、ピンチを回避したり、もう少し賢沢を言えばその時々をみんなで楽しめたら素敵だなあ、と思っています。

精神保健福祉士 山崎春菜



## たんぼぼ当事者研究ミーティング

理事長 西谷清美

NPO法人サヤたんぼぼでは、2年前の夏に四国学院大学に講師として来県されていたべてるの家の理事でもある向谷地生良さん(北海道医療大学)との夜の交流会をきっかけに、月に1回の当事者研究ミーティングがスタートしました。毎回の参加者は、5人から10人、土曜日の午後の約2時間、自分自身の苦労に名前をつけて(苦労ネーム)、それを集まった皆の前で披露し合い、研究してみたいと希望(研究テーマの提出)する人の苦労を取り上げて皆で話し合うというスタイルです。

当事者研究は、研究ですから安全です。仮に精神医学という幻覚や妄想であったとしても、ここでは苦労の体験としてそのまま受け入れられます。不可解な体験や生きることの不自由さ、爆発しそうな心持、ミステリアスな世界等は研究の仮説として真面目に取り上げられ、皆のアイデアや経験知をもって解決案が提示されます。もちろん、多くの気づきや解決への道程は研究テーマを提出した人の内側で確固たるものになっていきます。

ここでの他者との対話は常に開かれたものです。“わいわい、がやがや”と意見を交わしているうちに少しずつ元気を取り戻し、一人ひとりの言葉に力が宿ってきます。当事者研究は治療ではありませんから、精神医学という症状の軽快をゴールにはしていません。他者との対話を通じて自分の苦労を自分のものとして引き受け、人として自らの誇りを再び自分の手にすることを目指します。

今年度は、現在のところコロナウイルスの影響でスケジュール通りの実施が難しい状況です。コロナの収束を待って再開しますので、メンバーの皆さん、もう少しの辛抱を宜しくお願いします。